



社員・お客様・地域を絡めての食と健康への取り組み強化

取組の目的・背景

■背景

高齢化率、がん死亡率が高い本県において、「お客様も、働く従業員も、健康で長生きしてもらうこと」が最も大切なことと考えた。

■目的

食を通じて健康と豊かな消費生活を提案する「食育コミュニケーション活動」に取り組み、美味しく体に良い食材や、その食べ方を勉強して、地域のお客様へ貢献できる店舗づくりを目指す。

取組の内容

- ・毎月1回の店頭イベント「食育応援週間」の実施により、健康的な食生活を提案。食育応援週間は令和3年11月よりスタートし、2024年7月で第30回目を迎えた。
- ・食と健康に関わる情報発信や、おすすめ食材を使った献立提案、旬の食材を使ったレシピの配布を実施し、お客様へ周知している。レシピについては、取引先メーカー提供の物に加え、従業員からの募集レシピ、野菜ソムリエの考案レシピ、行事食、伝統食、秋田の郷土料理などを含め、これまでに900種類以上を作成し200,000枚以上を配布。
- ・試食やアンケート、ゲーム等を行い、お客様が参加できる体験型イベントにすることで、食について楽しく学べる機会を作っている。また夕方に行われる「4時市タイムセール」では、調理した食材の試食が出来るLIVE販売を実施し、「美味しさ」を伝えている。
- ・食育応援週間中の土曜日には、秋田県出身の野菜ソムリエプロによる店頭販売「野菜の教室」を実施し、美味しい野菜の食べ方を紹介している。
- ・青果および鮮魚売場に産地直送コーナーを設置し、農産物、海産物を中心とした地場産品を積極的に販売し、地産地消に貢献している。

- ・地域の食生活改善推進員と連携したイベント、メニュー開発のほか、健康講座や店頭でのチラシ配りなど啓発活動を実施している。（井川町・男鹿市）
- ・地元中学生との「食育弁当」の開発・販売を行い、地域を巻き込んだ食育の普及、啓発に取り組んでいる。（男鹿市）
- ・地元小学生の社会科見学では店舗内、バックヤードの見学等を実施している。
- ・中学生、高校生のインターンシップの受け入れも積極的に行っており、食料品を取り扱う企業ならではの職場体験に繋がっている。
- ・秋田市環境都市推進課との協働で『食品ロス削減』の普及活動を行っている。店内に食品ロス削減コーナーを常設し、フードロス削減に関する配布物を使った啓発活動を実施している。

■取組の実績・成果

- ・お客様からのお褒めの言葉を多く頂戴している。「料理のレパートリーが増えた」「調理技術が身に付いた」「家族の団らんが増えた」「子供が嫌いな野菜を食べられるようになった」「夫が料理を作るようになった」「栄養バランスの大切さを再確認した」等。
- ・令和6年4月8日発行 流通業業界紙 『食品商業 2024年5月号』にて特集記事が掲載された。また掲載以降、取引先メーカー・問屋からの問合せが増えており、様々な販売促進提案やイベント実施の協力が新たに得られた。

今後の展望

- ・小学生を対象とした「おしごと体験」イベントを実施予定。（秋田市御所野店）
スーパーマーケットの本物の商品や道具を使って、本物のお客様と接客する『ホンモノ体験』を提供。生鮮部門での調理やレジでの接客を通じ、お仕事の難しさや喜び、楽しさを学び、「食」に関心を持ってもらう。
参加者には子供用の制服や白衣を用意し、実際の店頭でお仕事をする姿を一般のお客様にも見て貰い、体験してもらう。
- ・地場産品の積極的な販売に向け、地元メーカー、生産者と食育の取り組みを進める。
「〇〇の日」や「季節行事」に合わせた催しを実施し、「マグロの解体販売」や「まいたけのまるごと1株販売」など、体験型イベントを企画する。
- ・野菜摂取推進プロジェクト（野菜摂取意欲を高める取り組み）の強化。
手のひらをセンサーに数十秒当てるだけで野菜の摂取量が足りているかを計測できる機器「ベジチェック®」を店頭へ設置し、野菜摂取を推進する。
- ・生鮮食品の廃棄ロスを現状の半分程度にする。
販売数、陳列数を見直し、仕入、製造の過剰を防ぐ。
商品管理レベルを高め、商品価値が高いうちの割引販売による売切りを目指す。